

第2章 学校経営

1 学校経営方針 (2022 案)

建学の精神

めざせ世界・五大州 (校章の意味、地域の願いから)

1 教育目標

- | | |
|-----------------------|-----|
| ○自ら学び、主体的に行動できる生徒 | (知) |
| ○自他を尊重する心豊かな生徒 | (徳) |
| ○ねばり強く、心身共に健康でたくましい生徒 | (体) |

2 教育の期待像

(1) めざす生徒像

- ①主体的に学び、深く考え、自ら課題を解決できる生徒
- ②夢・希望を持ち、可能性を伸ばそうと努力する生徒
- ③目標を立て、計画的に学習する生徒
- ④自他の生命を尊重し、**他者への思いやりの行動**ができる生徒 (いじめをしない生徒)
- ⑤安全な行動を心がけ、進んではたらき、責任を果たす生徒
- ⑥規律正しく、けじめある生活ができる生徒
- ⑦**持続可能な社会づくりに貢献**できる生徒
- ⑧自分の健康・体力に関心を持ち、**健康管理**ができる生徒

(2) めざす学校像

- ①**生徒が明日も行きたくなる学校** (いじめのない学校)
- ②保護者、地域から信頼され、保護者が安心して子どもを託すことのできる学校
- ③確かな学力の向上を図るとともに、生徒一人一人のよさを見つけ可能性を伸ばす学校
- ④生徒、教師が互いに信頼し、協働して活動する学校
- ⑤信頼関係に基づいた生徒理解・教育相談の充実を努め、生徒の居場所がある学校
- ⑥生徒の自己肯定感を育み、夢や希望を育む学校
- ⑦**生徒が新しい時代を生き抜くために必要な資質・能力** (言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力) を育む学校

(3) めざす教師像

- ①教師としての専門的知識・技能をそなえ、使命感にみちた教師
- ②豊かな心を持ち、人間的魅力にあふれ、生徒から慕われる教師
- ③生徒理解に努め、生徒のために生徒のことを考え、前向きに取り組む教師
- ④授業を大切に、創意工夫を持って指導する教師
- ⑤時代の学びの変化に柔軟に対応し、自らの資質・能力の向上に励む教師
- ⑥「**チーム学校**」の保護者・地域・同僚と連携・協働して組織的に対応できる教師

3 経営方針

—— 関わり 励まし 鍛える教育 ——

◇全職員が、「関わり、励まし、鍛える教育」の実践を通して、生徒一人一人のよさを認め、自己肯定感を育み、可能性 (夢や希望) の芽を開花させる人間力の育成

—— 生徒個々に光をあてる教育活動 ——

◇職員の指導技術の向上、生徒理解 (個々のよさの伸長) を基盤とした「わかる授業」の構築 (授業改善)
◇家庭・地域との連携を通して「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす信頼される学校づくりの推進

自己発信力の育成 磨こう！「聴く力」・「伝える力」・「他者を思いやる心と行動」

令和4年度も継続して「育成テーマ」として、「自己発信力の育成 磨こう！『聴く力』・『伝える力』・『他者を思いやる心と行動』」を掲げ、全教育活動を通して、あらゆる場面で重点的に「聴く力」・「伝える力」を鍛えていきたいと考える。教師や学友の言葉に傾聴する態度「聴く力」や自分の考えを他者へ「伝える力」（自己発信力の育成）の育成は、本校生徒の課題でもあり、学校教育目標の「主体的に行動できる生徒」や「主体的・対話的で深い学び」（学習指導要領）に必要な不可欠の「力」として、以下に、視点を踏まえて重点的に育んで参りたい。

- (1) 県教育主要施策、うるま市の教育施策等を踏まえ、全職員の協働体制を基盤として組織的に取り組む。
- (2) 学校教育活動全体を通して生徒の「自主性」を育み、自己肯定感を高める。
- (3) 教師の指導力向上を図り、授業の工夫改善に努める。
- (4) 生徒と教師の深い信頼関係を基盤とした規律ある学校づくりを推進する。
- (5) 適正な学校評価、教職員評価に努め、評価結果を取組改善及び教師の資質向上につなげ教育活動の充実に努める。
- (6) 保護者・地域の参画を促進し、連携・協働して諸問題への対応を図る。

4 本年度の重点課題

(1) 特色ある教育課程編成による教育活動の推進

- ・地域連携等を通して、学校の優位性を生かした教育活動（福祉活動等）
- ・地域教育機関と連携した ICT 教育の充実と授業改善

(2) 基本的生活習慣の確立

- ・主体的、積極的に働く勤労意欲の育成
- ・うるま市共通実践項目「あいさつ・返事・後始末」・「与二中プライド」の徹底

(3) 基礎・基本の確実な習得と活用するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成（学力保障）

- ・学力向上推進施策「学力向上推進プランプロジェクトⅡ」の徹底
- ・学んだことを生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養
- ・市の GIGA スクール構想を踏まえた授業改善を通じた教師の資質・能力の向上

(4) 規範意識の醸成と表現力の育成・生徒リーダーの育成

- ・自己発信力の育成：「聴く力」・「伝える力」・「他者を思いやる心と行動」（道徳心の育成）
- ・生徒の自主運営による学校行事の充実

(5) 学校組織の機能性、機動力の向上

- ・企画委員会、学年会、職員会、特別委員会等の計画的実施と相互の連携強化、「チーム与二中」の推進

5 重点目標

- (1) 確かな学力の向上・・・基礎基本の徹底と補充学習の充実、ICT 活用による学力向上推進
- (2) 豊かな心の育成・・・他の生命を尊重し、他者への思いやりの行動ができる生徒の育成
- (3) 健康と体力の向上・・・危機回避能力の育成
- (4) 教師の指導力向上による授業の工夫・改善・・・検証授業の充実による教師の指導技術の向上
- (5) 生徒の主体的活動の充実・・・生徒会活動の活性化
- (6) 地域に開かれ、保護者・地域から信頼される学校

6 重点目標を達成するための具体的取組事項

(1) 確かな学力の向上

- ①学習用具の準備やチャイムと共に授業を始めるなどの授業規律の徹底を図る。
- ②落ち着いて学習に集中できる環境づくりの醸成。(始業時の「黙想」等)
- ③学ぶ意義を理解させ、主体的に学ぶ意欲の向上や言語活動の充実を図る。(「何を」「どう学ぶか」)
- ④「うるま市共通実践」に視点をおいた「勇気づけのボイスシャワー励まし運動」と「聴くこと」の推進。
- ⑤基礎的・基本的な知識・技能の習得及びそれらを活用するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むための授業改善の徹底およびICT活用による学力向上推進(「聴く力」・「伝える力」の育成)
- ⑥「与二中授業実践スタンダード」の推進(気づきを与える場面設定)

与二中授業実践スタンダード(「中頭指導行政の基本方針の視点①～③挿入、「※」は今年度の重点)		
①「しっかり教える」 (視点3:組織的な関わり)	②「じっくり考え、させてみる」 (視点2:学び・育ちの実感)	※③「たっぷり価値付ける」 (※視点1:自己肯定感の高まり)
ア ※「身につけさせたい力」「まとめを意識しためあての提示」※ <u>つかむ場面</u> (見通しを持たせる本時の学習計画の伊示) 「授業仮説」「手立て」「めあて」の確認		
イ「生徒が参加する授業実践」 <u>考える場面</u> (交流場面:自己発信力「聴く力」・「伝える力」の育成)		
ウ「課題について自分の考えを持つ時間の確保」 <u>考えを深める場面</u> (アクティブラーニング等の実践)		
オ 授業終末… <u>振り返る場面</u> (めあての達成)		
カ 家庭学習の提示… <u>授業と連動した課題の提示</u> (予習学習の奨励)		

- ⑦小中連携「キャリア教育」を通して、目的意識の高揚を図り、「基礎的・汎用的能力」の育成や学力向上に努める。
- ⑧生徒会・学習支援員等と連携した放課後の補習教室「未来のための塾」や補習学習等の活用による学習支援の充実
- ⑨家庭学習(「志ノート」による自学自習)を通して、保護者と連携して学習習慣の確立を図る。
- ⑩読書活動の質的充実を図る。無読者をなくし、年間読書冊数35冊を目標とする。

(2) 豊かな心の育成

「何のため」という目的観をもたせ、その遂行のために必要な「強い心」を育む「関わりと励まし」に努める。

- ①与二中プライド「①あいさつ ②聴く態度 ③5分前行動 ④返事」の実践
- ②人格の礎となる「思いやりの心と行動」を育成する — 感謝・友情・親孝行の心を育む教師の言葉かけ —
- ③正しい言葉遣いや礼儀、ルールを守る生徒の育成で、いじめゼロをめざす
- ④読書で世界を広げ、「人格」を磨く — 「万学の基礎」となる読書教育の推進 —
※「図書館を利用しての帰りの会」(毎週水曜日)の徹底
- ⑤友情を育み、「人間力」を高める — 「平和教育」「道徳・人権教育」「環境教育」の推進による人間力の育成 —
- ⑥特別支援教育を踏まえた学級指導や総合的な学習の時間の充実による人間力の育成
- ⑦「凡事徹底」による基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
- ⑧全教育活動を通して道徳教育の推進を図るとともに、全職員の関わりによる道徳教育(「考え、議論する道徳」)の充実を図る。
- ⑨うるま市共通実践項目「あいさつ・返事・後始末」、「重点項目」の推進
- ⑩生徒指導の3ポイント(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を基盤とした生徒理解・教育相談の充実を図る。
※いじめアンケートの確実な実施と早期対応を組織的に推進
- ⑪丁寧な言葉遣い(「〇〇さん」等)による互いを尊重する言葉遣いの徹底。
- ⑫キャリアパスポート等のキャリア教育を通して、目的意識の高揚やキャリア発達を促し、夢や希望を育む。
- ⑬豊かな体験活動を通して、主体性と積極性を育む。
- ⑭学級経営の充実を図り、生徒が自己存在感を実感できる居場所をつくる。
- ⑮特別活動(学級活動・生徒会活動・学校行事)の充実による責任感、連帯感の涵養に努める。
- ⑯地域の歴史、伝統文化にふれさせ、主体的に地域へ関わる意識を高める。
- ⑰持続可能な社会づくりに貢献できる生徒の育成に努める(SDGsへの対応)。

(3) 健康と体力の向上

- ①安全管理・安全指導の徹底を図り、防災意識を高め、「自分の命は自分で守る」危険回避能力を育成する。
- ②危険な行為や行動を改めることのできる生徒を育成する。
- ③食育・給食指導等の健康教育の充実に努め、自己の健康管理の意識向上を図る。
- ④体育的行事の充実に努め、運動に親しむ習慣の確立と体力の向上に努める。
- ⑤運動部活動の指導充実及び部活動規定の徹底と工夫改善を図る。
- ⑥「新しい生活様式」（手洗い、マスク、3密防止等）に対応できる生徒の育成

(4) 教師の指導力向上による授業の工夫・改善

- ①うるま市共通実践項目、「与二中授業実践スタンダード」の推進を基盤とした日常的な授業の工夫・改善に努める。
- ②教師が模範となり、生徒への「さん」付けと授業中における敬語の使用、TPOに応じた適切な言葉遣いをするなど互いを尊重する取組を学校全体に広げる（授業はフォーマルの場）。※「沖縄県学力向上推進本部会議からの提言」(沖縄県教育委員会)
- ③週案の活用による授業の工夫改善及び週案による教育課程管理の徹底を図る。
- ④校内研修の充実に努め、指導力向上に努める。（視点を明確にした授業研究、全教師が主体的に取り組む研修の実施）
- ⑤校外での研修に積極的に参加し、担当教科等の指導力向上を図る。（研修に参加しやすい環境づくり、研修成果の共有）
- ⑥学校評価、教職員評価システム面談に基づいた指導の改善を図る。

(5) 生徒の主体的活動の充実

- ①教師の適正な指導のもとに、生徒が主体的に関わる学級活動の推進を図る。
- ②生徒一人一人の出番を作り、自己存在感、自己肯定感を育む。
- ③「総合的な学習の時間」はもとより、キャリア教育やすべての教育活動を通して、生徒の自主性・主体性を育む。
- ④生徒が自己の可能性を主体的に伸ばす態度を育成するとともに、自己教育力を育み規律ある生活態度を身につけさせる
※特に、「聴く力」・「伝える力」（発信力）・「他者を思いやる心と行動」（奉仕の心 ボランティア精神等）の育成を徹底する
- ⑤全職員体制で部活動や生徒会活動の活性化や充実に努め、生徒リーダーが育つ校風を醸成する。
- ⑥外部指導者等と連携を図り、特別活動や部活動の充実に努める。
- ⑦保護者・地域と連携して豊かな体験活動の場をつくり、生徒が主体的に取り組む活動を推進する。

(6) 保護者・地域から信頼される開かれた学校づくり

- ①保護者・地域への積極的な情報発信に努め、学校教育活動に対する理解を促進する。
（メールによる配信、学校便り、進路便り、各便り等の充実）
- ②地域人材、地域資源の積極的な活用を図り、地域に根ざした教育を推進する。
- ③授業参観、行事等により学校教育活動を保護者・地域に公開する。
- ④学校評価に保護者・地域の声を積極的に取り入れ改善に生かす。
- ⑤保護者・地域社会の学校運営への意識向上を図り、参画を促進する。
- ⑥小中一貫したコミュニティ・スクール（市民協働学校）の推進

2 学年目標(令和4年度)

教育目標	重点目標	学年目標	
自ら学び、主体的に行動できる生徒	確かな学力の向上	1年	自己の学習目標を持ち、主体的に学習に取り組める生徒
		2年	進路について関心を持ち、主体的に学習する生徒
		3年	夢や希望を持ち、自己の進路を見つめ、主体的に学習する生徒
自他を尊重する心豊かな生徒	豊かな心の育成 (心の教育・集団づくり・環境整備)	1年	思いやりの心を持ち、協力し合う生徒
		2年	自他を大切にし、互いに認め合い尊重し合う生徒
		3年	自己の言動に責任を持ち、相手の立場になって考え、行動できる生徒
ねばり強く、心身共に健康でたくましい生徒	健康と体力の向上 (健やかな体の育成)	1年	生活リズムを整え、何事にも前向きに取り組み、心身のバランスのとれた生徒
		2年	生活習慣を整え、何事にも粘り強く取り組み、自己と向き合うことができる生徒
		3年	何事にも主体的かつ粘り強く取り組み、心身健康で自己管理ができる生徒